



令和元年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

赤江中学校区 令和元年1月23日(木)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和元年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 『地域の絆を深めるために私たちにできることは何か』

10年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。昨年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 令和元年 402,524人 ⇒ 令和42年 291,719人 (27.6%減)
- ・赤江地域自治区の人口推移 令和元年 34,523人 ⇒ 令和42年 25,261 (26.8%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・赤江中学校区での活動例・五感で楽しむチェロと茶の湯、小戸之橋ストリートフェスティバル、食でつなぐわくわく防災事業等



▲赤江中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- PTAに入って、地域の人と触れ合う機会も多い。子どもたちに負けないよう大人も元気に活動していくのが自分の務めと思って活動している。子どもに地域のことを知ってもらう機会をPTAでもつくりたい。
- まちづくり推進委員会でも、松井用水路を後世に残すために掲示板を設置しようとしている。子どもたちに伝えていくための活動を今後もやっていきたい。
- 自然が豊かなところは宮崎の大きな魅力。また、稲荷山や松井用水路など赤江が誇る資源である。イベントを仕掛けたり、人が来たりするような仕組みを作っていきたい。
- 職場体験で中学生の受け入れをしていたが、赤江中の生徒はあいさつが素晴らしい。子どもたちには赤江のことを自ら調べて知ってもらいたいし、子どもたちから地域への発信にも期待したい。



● 中学生からの意見

- 生徒会で日頃から地域のゴミ拾いなどの活動を行っている。中学生も地域のことを学び、地域の活性化にどう生かせるか、地域の人と話していけたら良いと思う。
- 地区の文化祭に吹奏楽部で参加している。幅広い年代の人に来てもらい、あたたかい言葉をもらっている。演奏することで、たくさんの人に笑顔を届けることを実践している。
- 小学校では毎年、特攻隊の劇をしていた。ただ他の学校の人たちに聞くと、知らない人も多い。もっと発信していかないといけない。
- 松井用水路について、小学生の時に社会で習った。もう一度自分たちで調べたり、発表したりして、自分たちの住んでいる地域の歴史について知ることが大切だと思う。



● 傍聴席からの意見

- 特攻の基地と松井用水路は赤江の宝。旧海軍航空隊宮崎基地に関しては四つの遺構がまだ残っている。子どもたちでも分かるパネルを設置したり、遊歩道を整備したりしている。特攻で亡くなった人たちの気持ちを大切に、多くの人に伝えていきたいと思っている。
- PTAまたは地域がお互いに何かをしようとする際、誰が何をしてくれるのか手探りになってしまい、うまく進まないことがある。地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールという取組みが進み始めている。宮崎市としてどのように進めていくのかももっと知りたい。

● 市長からの回答、感想

- 地域で子どもを育てることを止めてしまうと、その地域の雰囲気や特長は途切れてしまうと思う。やはり地域が子どもを中心に連携していくことは重要である。市では地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールに係る予算化も進めているところ。なお、コミュニティ・スクールは来年度モデル校を作り、その評価をもとに数年かけて増やしていきたいと考えている。（※一部教育長から説明）
- 赤江地域で整備を進めている旧海軍航空隊宮崎基地の遺構については、平和教育に活用していただくと思うが、市では掩体壕の一つを購入し皆さんが見学できるようにしていく。こちらも含めて、平和教育の様々な活用策につながるのではないかと考えている。

～参加者アンケートより～

- ★赤江の自慢は「松井用水・特攻慰霊碑等」があるので、もっと広く知らせる方法を考えるべき。
- ★子どもが沢山集まれる場所（消費の場所から教育の場所）が必要だと思った。
- ★自治会・地域づくりと協力して、子どもたちができる事についてもっと話してほしかった。

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報広聴室
TEL 21-1705
FAX 29-6547

